

鳥書

山燒失し、また土木を經營すとして、喬木の枝ども多くもぎおろしたれば、小鳥共が棲にまどひて、斯くは集るなどいへり、案するにこはまさしく雀にはあらで、あとといへるものなるべし。

〔日本書紀神代〕一書曰略○中大己貴命與少彥名命戮力一心經營天下復爲顯見蒼生及畜産則定其

療病之方又爲攘鳥獸昆虫之災異則定其禁厭之法是以百姓至今咸蒙恩賴

〔延喜式祝詞〕六月晦大祓十二月准之

國津罪止八○昆虫乃災高津神乃災高津鳥災畜仆志盡物爲罪略○下

鳥巢

〔倭名類聚抄羽族體〕巢孫愔切韻云鳥巢在穴曰窠音在樹曰巢音窠音須久不音穿垣栖音雞曰音時音時音和

〔段注說文解字六下〕巢鳥在木上曰巢在穴曰窠穴部曰穴中曰窠樹上曰巢巢之言高也窠之言空

止曰窠象其架高之形凡巢之屬皆从巢

〔類聚名義抄三〕栖棲鳥ノス、栖俗巢士交反ス、スクフ、音時トケラ、音時トケラ、

窠トケラ、〔同七〕窠音和トリノス、適俗

〔和漢三才圖會四十四〕巢音窠音科 和名須 一云須久不

五雜組云羽族之巧過於人其爲巢只以一口兩爪而結束牢固甚於人工大風拔木而巢終不傾也雜

木枯枝縱橫重疊不知何以得膠固無恙此理之不可曉者凡鳥將生卵先雌雄營巢巢成而後遺卵伏

子及長成飛去則空其巢不復用矣

按巢之綿密也鷦鷯燕最勝焉杜鵑不能自營而假用鷦鷯巢亦一智也如島鷯文鳥鷓鴣者葦於樊中

〔百千鳥下〕諸鳥巢癖之事

鳥ひよ鳥は巢くせいろく有物也玉子産て捨る事毎年同じやうなる日取に捨る物也又子かへりて直に捨るも有二三日置て捨る有一度くせ有時は例年かはらず捨る物也用立す癖なき